

チラシあり

(A3 両面 1 枚)
令和 6 年 8 月 5 日

市政記者クラブ 様

名古屋市美術館 担当：井口、魚住
電話：212-0003

美術館特別展「民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある」の開催について

このたび、みだしの特別展を下記のとおり開催しますので、ぜひご周知いただきますようお願いいたします。

記

1 概要

日々の暮らしで使われる器、衣類、道具などに美を見出し、素材や作り手に思いを寄せる。約 100 年前に思想家・柳宗悦が唱えた民衆的工芸「民藝」のコンセプトは、今も私たちの日常を心豊かなものにしてくれます。本展では美しい民藝の品々約 150 件を展示します。また、今に続く民藝の産地の作り手の仕事や、民藝を取り入れた現代のライフスタイルをインスタレーションによって紹介し、民藝のひろがり、今、そしてこれからの展望します。

2 会期

令和 6 年 10 月 5 日(土)～12 月 22 日(日) (68 日間)

3 主催

名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、メ〜テレ、東映

4 観覧料

一般 1,700 円 (1,500 円)、高大生 1,000 円 (800 円)、中学生以下無料
() 内は前売または 20 名以上の団体料金

5 本展の特長・見どころ

(1) 刺し子の着物や器など民藝の名品、約 150 件が集結

本展では、柳らが集めた暮らしのなかにある美しい民藝の品々を中心に紹介し、「民藝ってなんだろう？」という初心者の方々にも親しみやすくご覧いただきます。

(2) 民藝の「いま、そしてこれから」に迫る展覧会

柳の亡きあとも、民藝運動はひろがりを見せました。また、日本の各地でも伝統を受け継ぎ、現在でも新たな職人や手仕事の品が誕生しています。本展では、現在の民藝の作り手に注目し、小鹿田焼、丹波布、鳥越竹細工、八尾和紙、倉敷ガラスの 5 つの産地を紹介。現代作の展示とともに、現地を取材して制作した本展オリジナルの映像により、そこで働く人々の想いや制作風景を伝えます。

(3) 展覧会特設ショップもお楽しみに

本展覧会の特設ショップでは、第Ⅲ章で紹介する東京・高円寺のショップ MOGI Folk Art が日本各地の作り手たちと交流して生み出した別注品の数々や、注目の染色家／アーティスト・宮入圭太氏が本展のためにデザインしたグッズ、そして各地のやきものやガラス、布、和紙、木工など、国内外の職人による民藝の品々を多数取り揃えます。